

7.交通拠点整備による 整備効果把握手法(案)について

1. 交通拠点整備による整備効果把握手法(案)について

○追浜駅での交通拠点による整備効果把握手法について、下記視点から評価を行うことを検討します。

効果1. 交通円滑化効果

○路上に停車するバスやタクシーによる交通障害の解消と、交差点改良等による交通流の円滑化

- 旅行速度 整備なし: ○km/h ⇒ 整備あり: ○km/h
 - 貨幣換算
 - ・ 走行時間短縮効果: …億円/50年
 - ・ 走行経費削減効果: …億円/50年
- 交通事故: 整備なし: ○件/億台キロ ⇒ 整備あり: ○件/億台キロ
 - 貨幣換算
 - ・ 交通事故減少効果: …億円/50年

効果2. 利便性・移動快適性向上効果

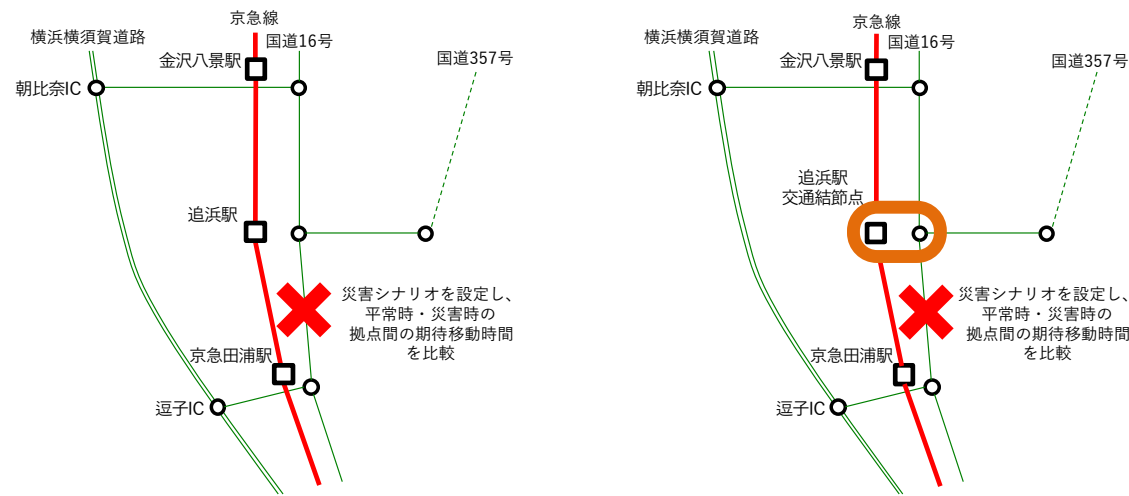
○新駅前広場へのバスやタクシー乗降場の集約による歩行者の移動時間短縮効果及び移動快適性の向上効果

- 歩行者の移動時間 整備なし: 約○分 ⇒ 整備あり: 約○分
 - 貨幣換算
 - ・ 乗換利便性向上効果: …億円/50年
 - ・ 移動快適性向上効果: …億円/50年

効果3. 道路ネットワーク上の耐災害脆弱性の改善効果

マルチモーダルな拠点整備による、道路ネットワーク上の耐災害性評価における「脆弱性」結果の差分を把握

交通拠点整備による道路ネットワーク側への効果を測定可能



◀ 整備前 ▶ 脆弱性評価: 0. ●● ▶ 整備後 ▶ 脆弱性評価: 0. ●●●

これらの差分により、整備前後の交通拠点整備による効果を把握

➡ 上記3点により、「拠点周辺」「拠点間NW」それぞれへの効果について、把握を実施 1